

まちの話題

4月28日[Mon]

メタボ関連がん撲滅をめざす連携協定を締結

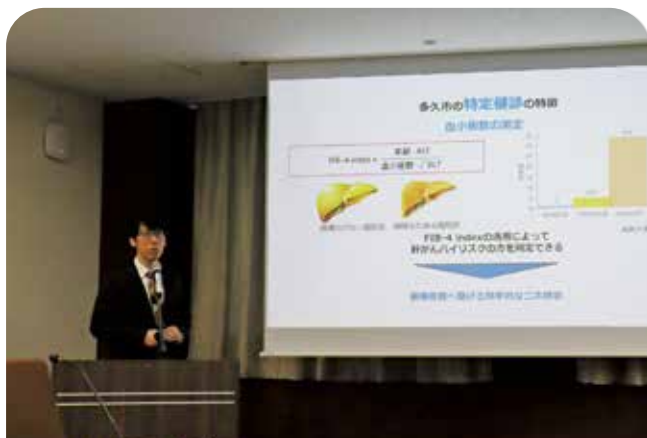


▲佐賀大学医学部附属病院のみなさんと多久市の関係者

佐賀大学医学部附属病院と多久市はメタボリックシンドロームが関連するがん撲滅をめざして連携協定を結びました。

同病院では「オール佐賀で挑む！メタボ関連がん撲滅プロジェクト」を推進し、メタボ起因の肝がん、前立腺がん、膵がんの撲滅をめざされています。市では肝がんや肝硬変のリスクが検証できる血小板数のデータなどを活用して早期に肝臓のエコー検査を勧奨し、肝がんや肝硬変への進展を予防します。今年度から55歳～74歳の男性に前立腺がん検診の無料クーポンを配布し、受診率向上に努めます。

野口満院長は「データを活用し、より多くのみなさんの健康に貢献します」と挨拶。横尾俊彦市長は「健康は最も大切なことのひとつ。連携協定を機に、健康行政にしっかりと生かします」と意気込みを語りました。



▲高橋宏和肝疾患センター長による詳細な説明もありました



▲協定書を手にする野口院長（右）と横尾市長（左）

5月2日[Fri]

日本スーパーフライ級新王者 山口仁也選手 表敬訪問



▲チャンピオンベルトを肩にかけ、握手する山口選手（右）と横尾市長（左）

4月に東京後楽園ホールでのボクシング・日本スーパーフライ級王座決定戦で3対0の判定勝ちを収め、新王者に輝いた山口仁也選手（多久町出身）が市長を表敬訪問されました。

第46代チャンピオンとなった山口選手は「相手が高校の先輩でしたが、判定で自分の名前が呼ばれたときはほっとしました。世界チャンピオンをめざして、一勝一勝勝ち進めたい」と勝利の喜びとこれからの抱負を話されました。

横尾俊彦市長は「立派な結果とチャンピオンベルト、そして熱い思いを市役所まで運んでくださって心から感謝しています。大きな夢に向かって日々鍛錬を積み重ね、けがのないように、これからも活躍されることを期待しています」とお祝いの言葉を述べて激励されました。

